

宮沢賢治の作品の心をとらえ、読書座談会で話し合おう

～「やまなし」資料「イーハトーヴの夢」～

指導者 大屋 裕幸

学 年 第6学年1組17名

日 時 令和2年11月4日（水）6校時

1 単元について

【育成を目指す資質・能力】基礎的な知識・技能，活用する力，表現する力（★対話する力），振り返る力，考えをもつ力

【研究主題】 言葉の力を高める言語活動の在り方
～質の高い対話を通して～



【単元観】

本単元は、学習指導要領「C 読むこと」の「カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。」をねらいとして設定した。本単元で取り扱う言語活動として、「読書座談会」で作品の心（宮沢賢治が作品を通して伝えようとしたことは何か）について、友達と考えを交流し自分の考えを広げる活動を行う。座談会は、参加者がテーマに沿って自分なりの解釈を自由に発言するものである。少人数で気楽に話し合いができ、すぐに意見交換ができるので、自分の思いを伝え合う楽しさを味わい、自分の考えを広げやすいと考える。座談会では、物語の読みを通して作品の心に対する自分の考えを相手に伝えたり、相手の読みを受け止めて考えを述べ合ったりすることを目指していきたい。

本教材は、賢治の深い思想性をもつ作品であると言われている。擬声語・擬態語、造語、色彩表現、比喩など、賢治独自の言葉の響きの美しさや不思議さなどの魅力にあふれている。「やまなし」は、「私」による一人称視点で書かれた外枠と、三人称の客観的な視点で書かれた「五月」「十二月」の2枚の幻灯という額縁構造になっている。これらの構成と表現の両面から作品世界をとらえることを通して、作品に描かれている賢治の生き方や考え方に迫ることができると考える。また、資料「イーハトーヴの夢」にもある賢治の生き方や考え方と本教材「やまなし」や並行読書で読んだ他の資料とを重ね合わせることで、人間の内面や人生観に迫る読書体験をさせたい。

【児童観】

本学級の児童は、5年生の時、伝記「手塚治虫」の文章を読んで理解したことを基に、自分の考えをまとめる学習をした。治虫の生き方や考え方について、既存の知識を結び付けて文章から理解した内容と既存の知識を結びつけて自分の考えをまとめることができた。6年生の物語「帰り道」では、視点のちがいに着目し、登場人物の心情や人物像をとらえることで、物語の全体像を具体的に想像し作品の主題を話し合う学習を行った。人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結び付け人物像をとらえることで、物語の全体像を具体的にイメージすることができた。一方で、表現の効果について自分の考えを明らかにしたり互いの意見の共通点や相違点を明らかにしたりよさを認め合ったりしながら、自分の考えを広めることが難しい児童がいる。

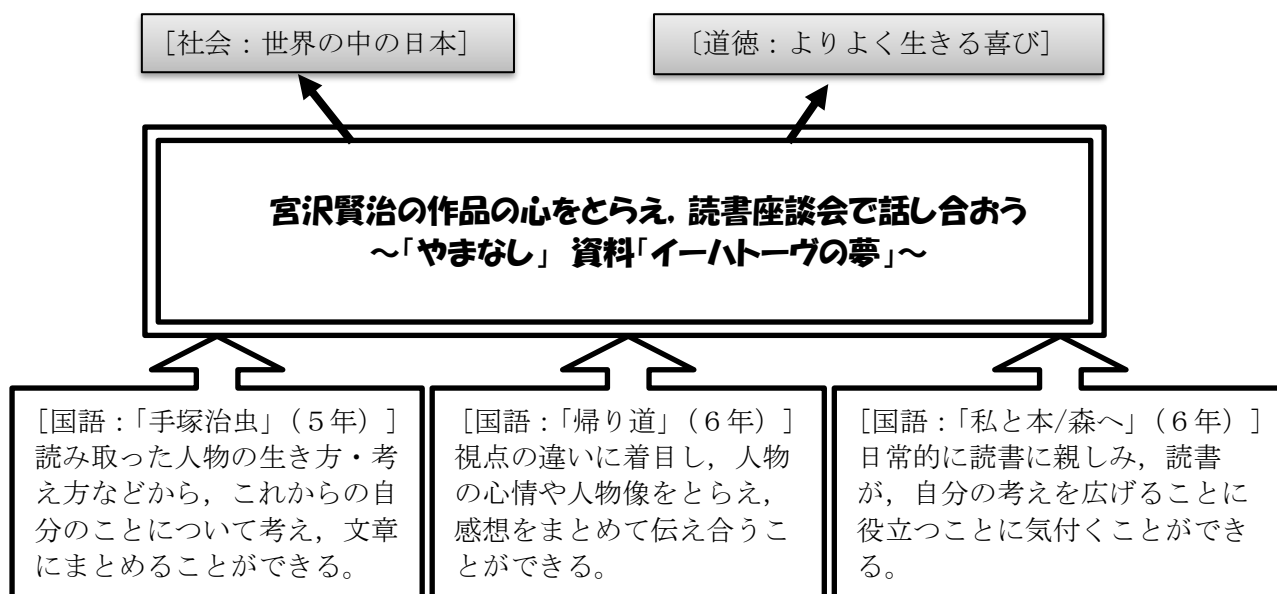
【指導観】

導入時に読書座談会のモデルを示すことで、言語活動の見通しをもたせる。

物語の全体像をとらえやすいように、作品の星座（構造図）を書かせる。その際、表現の効果を書き込ませて、それぞれの世界観を考えさせるようにする。対話場面では、児童に対話の必要性を感じさせる発問の工夫を図る。そして、叙述を根拠にした対話になるよう、線を引かせたり自分の考えを付箋に書かせたりして、本文の叙述を指し示しながら交流できるようにする。また、対話を通して考えを広める「やりとり」のモデルを提示していく。

並行読書として、賢治の他の作品を読み、単元後半の座談会で本教材や他の作品と比較して話し合うことで、より自分の考えを広げられるようにしていきたい。

2 本単元に関連する教科等



3 単元の目標

【知識・技能】

○比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。[(1)ク]

【思考力・判断力・表現力等】

◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。

[C読むこと (1)カ]

○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

[C読むこと (1)エ]

【学びに向かう力・人間性等】

○言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。[(1)ク]	①意見や感想を共有することで、互いの意見や感想の違いやよさに気づき、自分の考えを広げている。[Cカ] ②人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。[Cエ]	表現や構成等に着目して作品世界を捉えることに粘り強く取り組み、読書座談会への見通しをもって自分の考えを書いたり伝え合おうとしたりしている。

5 単元の学習計画と評価計画（全9時間）

次	時	学習内容	指導上の留意点	評価規準【観点】 (評価方法)
一	1	<ul style="list-style-type: none"> ○宮沢賢治作品を中心としたブックトークを行う。 ○宮沢賢治の作品の心について、読書座談会で話し合うという学習課題を確かめる。 ○読書座談会のよさを知り、学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ブックトークの中で、賢治は作品を通して自分の理想の世界「イーハトーヴ」を描いていたことを伝え、賢治の作品の心について話し合おうという学習への興味関心と見通しをもたせる。 ○ブックトークで扱う並行読書する作品を紹介する。 ○読書座談会のモデル映像を示し、関心をもたせ、やり方を知らせる。 	
二	2 3 4 5 6	<ul style="list-style-type: none"> ○資料「イーハトーヴの夢」を読み、賢治の生き方や考え方について話し合う。 ○「やまなし」を読み、読書座談会の準備をする。 ・「5月」「12月」の作品星座を作り、表現や構成の工夫に気付かせ、どんな世界か話し合う。 ・「5月」「12月」を比較し、共通点や相違点を見つける。 ・なぜ、題名が「やまなし」なのか、自分の解釈や考えを書く。 ○「やまなし」の読書座談会を行う。 ・賢治の作品の心について班で意見交流をする。 ・全体で交流する。(本時) 	<ul style="list-style-type: none"> ○宮沢賢治の「人物まなブック」を作成し、賢治の生き方・考え方について考えさせる。 ○作品星座には、物語の構造に合わせて、それぞれの月を象徴する比喻、色彩語、擬声語・擬態語などの叙述を表し、表現の効果についても考えさせる。 ○全文を1枚にまとめたプリントを用意し、自分の考えを書いた付箋を貼ったり、座談会で指し示したりできるようにする。 ○考えの根拠となる叙述にサイドラインを引かせ、自分の考えは付箋(黄)に書かせてサイドライン近くに貼らせる。よく分からないことは、別の付箋(青)に書かせ、座談会で話し合うようにする。 ○座談会で使える「やりとり」のモデルを提示する。 ○考えが異なるメンバーで座談会のグループ編成を行う。 ○座談会の途中で話し合いが行き詰まった時は、他のグループの話し合いを聞きに行ってもよいことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○比喻や反復などの表現の工夫に気付いている。【知識・技能】(発言・ワークシート) ○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。【思・判・表②】(発言・行動観察・ワークシート・付箋) ○表現や構成等に着目して作品世界を捉えることに粘り強く取り組み、読書座談会の見通しをもって自分の考えを書いたり伝え合おうとしたりしている。【主体的】(発言・行動・ワークシート) ○意見や感想を共有することで、互いの意見や感想の違いやよさに気付き、自分の考えを広げている 【思・判・表①】(発言・行動観察・ワークシート・付箋)

	7	○読書座談会で深まった考えをまとめる。 ・座談会で残った疑問について、グループや全体で意見交流する。 ・深まった考えを書きまとめる。	○友達の考えを聞いて、自分の考えに付け加え・修正・強化するところを書かせる。	
三	8	○自分が選んだ賢治の作品で、読書座談会の準備を行う。	○第二次と同じ学習過程で自分が選んだ作品の心について、自分の考えをまとめさせる。	○意見や感想を共有することで、互いの意見や感想の違いやよさに気付き、自分の考えを広げている 【思・判・表①】(発言・行動観察・ワークシート・付箋)
	9	○読書座談会をする。 ・賢治の作品の心について意見交流をする。 ・読書座談会で広がった自分の考えをまとめる。	○同じ作品を選んだ相手と対話させることで、意見や感想の違い、よさに気付き、自分の考えを広げられるようにする。	

6 本時の展開

(1) 本時の目標

○「やまなし」の作品の心について考えたことを座談会で交流し、自分の考えを広げることができる。【思・判・表】

(2) 本時の学習展開

学習活動と主な発問 (○)	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
1 本時のめあてを確認する。	○掲示から前時までの学習を振り返り、読書座談会で意見交流し、自分の考えを広げることを確認する。	
読書座談会で、「やまなし」の作品の心について話し合い、自分の考えをまとめることができる。		
2 読書座談会の進め方を確認する。	○「やりとり」のモデルを確認し、話し合いをする際に意識させる。 ○根拠があいまいな意見については、どの叙述から考えたのかを質問したり考えたりしながら進めることを確認する。 ○考えを広げるために、考えが異なるメンバーで班を構成する。	

<p>3 「やまなし」の読書座談会をする。 ○読書座談会で、「やまなし」の作品の心についてグループで話し合いましょう。</p> <p>4 自分の考えをまとめる。</p> <p>5 学習のまとめと振り返りを行う。 ○座談会を通してまとめた自分の考えを発表しましょう。 ○もっと話し合っておきたいことはありますか。</p>	<p>○根拠に即して交流するために、自分の考えを発表する際には、グループ用全文プリントに前時までの付箋（黄：自分の考え、青：疑問）を貼りながら説明させる。</p> <p>○座談会の途中で話合いが行き詰まった時は、他のグループの話し合いを聞きに行ってもよいこととする。</p> <p>○交流することで考えが広がったこと、疑問に残ったことなど、本時での自分の考えをまとめるようにさせる。</p> <p>○誰の、どのような読みで自分の考えが広がったかを振り返らせる。</p> <p>○本時で解決できなかった疑問は次時で話し合い、最終的な自分の考えをまとめていくことを伝える。</p>	<p>意見や感想を共有することで、互いの意見や感想の違いやよさに気づき、自分の考えを広げている。</p> <p>【思・判・表】 (行動観察, 発言, ノート)</p>
<p>読書座談会で考えを交流することで、自分なりの作品の心をとらえることができた。</p>		

7 板書計画

<p>まとめ 読書座談会で考えを交流することで、自分なりの作品の心をとらえることができた。</p>	<p>全文シート(掲示用)</p>	<p>宮沢賢治の作品の心をとらえ、 読書座談会で話し合おう 「やまなし」 めあて 宮沢賢治 読書座談会で、「やまなし」の作品の心について話し合い、自分の考えをまとめることができる。</p>
---	-------------------	--